2022年10月　アグニヨガ テキスト

アウム90

　地上の思考でさえ、密度の高い物体を動かすことができる。「高次の世界」の思考が持つすべての創造力を想像することができる。思考のぶつかり合いが真理を表すと言われるように、人は知らず知らずのうちに大真理を肯定しているのである。実は、思考エネルギーの創造力こそが、賢者たちが語る神秘なのである。つまり、一つの思考ではなく、思考の流れが交差することで発生（起こり）というスパイラル（螺旋）が形成されるのである。ここから多くの科学的実験が推測されるが、まず思考の物質的な力を確立することが必要である。軽いものが思考の力で動かせるのであれば、無限に進行するものにおいても同じことを想像することができる。精神的でもなく、倫理的でもなく、物質的に計算することで、至高の偉大さの概念を知ることができる。なぜなら、思考の可能性はすべての人に委ねられており、科学的に、知的に、あるいは浪費的（無駄）に使われ、存在するすべてのものに害を及ぼす可能性があるからである。このように、祈りは偉大な科学的体験と証明になり得る。

　私がアウムという時、私は世界の利益について考える。

アウム132

　アウム（AUM）という言葉の多くの定義に対して、Aは思考つまり基礎、Uは光つまり始まり、Mは神秘つまり最奥であることを思い出しなさい

アウム149

　秘密は倹約であり、便宜でもある。与えられた土壌で育つことができる花を植えることができる。いつ、誰に、穀物を託すか。最も必要でシンプルな形で、グルは特に必要なことを言うであろう。聖なるものを守ってくださるのであれば、一時的にでも必要なのである。グルが損害を与えるために隠していると疑われることはあり得ない。このようにグルを指導者として受け入れなければならず、秘密という概念が変容する。

　いわゆる「大いなる謎」は障壁ではなく、道を守っているに過ぎないということを理解することが非常に重要である。疑いと恐れのために、まだ道を歩んでいない人は、どんな手段もその人を動かすことはできない。そういう旅人は途中で引き返すのだが、引き返すのは嫌なものだ。したがって、グルはその人がよりよい道を見つけるのを助けてくれるのである。彼（グル）は、秘密は略奪されないための宝物であることを説明する。

アウム159

　心の拠り所となるもの、つまり愛されているものを喜ぶことができるのである。愛がなければ、思考や神秘や光のしるしを作ることができるだろうか。神秘は隠蔽に変わり、思考は陰謀（もくろみ）に、光は火の燃えさしに変わるだろう。そのように、人は一番美しいものを歪めるのだ。しかし、愛による真の道は、神を冒涜することを許さない。幽霊のようなものが現実となり、商業の喧騒は落ち着くだろう。人間は荘厳とは何かを悟るだろう。

　こうして「大いなる奉仕」が輝きを放つ。

召命 322

私はノックする者に次のように言う。 道の途中で、霊性がいっぱい詰まった器に出会うかもしれない。 その人を認識できるようにしよう。 その人と分かったら、できるだけ近づけるように努力しなさい。 覚えておきなさい、霊性とは火をつける炎のようなものであり、 あなたを引き寄せる素晴らしい磁石のようなものである。 運命づけられた幸せは拒絶されない。 呼ぶ(召命する)ことはあっても、繰り返し呼ぶことはない。

開かれた道が必要である。

私は、人工的に作られた地下室の窮屈さに息苦しさを感じているすべての人に言う。

喜びを待っている人は来なさい、宴の準備ができている。

私はそう言った。

召命 323

常に人類に光を送っている星について考えるといい。 星のように、自分の愛、智慧、知識を人に与える人になりなさい。 すべてを捧げることによってのみ、私たちは受け取ることができる。 私の名の下にあなたは働く。このことを忘れてはならない。 特にこれを覚えておきなさい。 私の光をどこにでも持ち歩きなさい。 通れない壁に囲まれた代理人に何の意味があるのか? 師匠はあなたと共にあり、あなたはあなたに従う人々と調和して いる。

調和、調和、調和。 道を後悔せず、世俗のプライドを忘れて、新しいものに心を開きなさい。

理解しなさい！

召命 325

森の中では、私の導きを探し求めよ。 山の中で、私の呼びかけを聞きなさい。 小川のせせらぎの中に、私のささやきを聞き取りなさい。 それは人間のささやきなのか? いや、海の轟きか、山頂の雷鳴である。

あなたに問う。敵を打ち負かすあなたの投石器はどこにある?

戦いの準備をしなさい。

私はあなたの後ろにいる。

召命 326

我々の力の一瞬のきらめき(искре)を忘れてはならない。 それは死者を目覚めさせる。 しかし、ホタルがだんだんと光を失っていくように、我々の火種(искру)も簡単に消えてしまう。

＊＊＊＊＊＊＊

（おまけ）

マスター

　マスターは、小さな子供のようになった人のことで、七つの中にある四角の中の三角形の目に入り、魂の苦悩によって、不死のローブを手に入れた人のことである。そのローブをマスターは汚れなく維持しなければならない。汚れを恐れてではなく、そのローブに投げられた泥がはね返って投げ手に当たることを防ぐために。

